|  |
| --- |
| 中学校　国語科　単元デザイン |
| 単元名 | 学　年 | ２学年 |
| 教材名　敦盛の最期―平家物語― | 生徒数 | ３２名 |
| 授業者 |  |
| １　単元の目標と観点別評価規準 |
| ・登場人物の言動や心情について話し合うことで作品の理解を深め，古典に表れたものの見方や考え方に触れる。・文章の特徴を生かして朗読し，古典の世界に親しむ。 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・文章の文体の特徴や場面の展開をふまえて朗読し，古典の世界に親しんでいる。・歴史的仮名遣いや「係り結び」，対句など，古文に特徴的な表現を理解する。・省略されたせりふの主語を確定する。 | ・登場人物の言動から分かることをワークシートにまとめ，それを根拠に話し合っている。・せりふや行動から，登場人物の心情の変化を捉え，自分の考えをまとめている。 | ・登場人物の人物像や心情などの理解したことを話し合おうとしている。 |
| ２　単元で働かせる「見方・考え方」 |
| ・使われている言葉の意味や使い方等に着目して，登場人物の人物像や心情を考える。 |
| ３　単元における「学習課題」 |
| 【単元の学習課題】・敦盛と直実の人物像や心情の変化を読み取る。・『平家物語』に描かれた社会や人間の生き方に触れる。 |
| ４　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的な子どもの姿と手立て |
| 主体的な学び | 対話的な学び | 深い学び |
| 　　　　興味や関心を高める自らの学びに自信をもち，更に学ぶ意欲を高めている。・新しい課題への意欲につなげる場の設定。　　　　見通しをもつ課題の解決に対する目的意識を明確にもっている。・歴史的仮名遣いなど既習事項を確認する場の設定。・目的意識を明確にした課題の設定。 | 　　　　互いの考えを比較する他者の考えとの違いに気付き，その理由を知ろうとしている。・目的に合った小集団の設定及び交流方法の活用。・考える視点を共有する場の設定。**物体 が含まれている画像  自動的に生成された説明**　　　　協働して課題解決する考えの根拠をもって，多様な表現で伝えようしている。・効果的な交流を行うための可視化の工夫。（根拠のある交流の場） | 　　　　自分の思いや考えと結び付ける自分の考えの根拠をもち，その考えを検証したり，最適解を求めたりしている。・複数の考えを比較・関連付けする場の設定。**物体, 置き時計 が含まれている画像  自動的に生成された説明**　　　　自分の考えを形成する得られた解を自分の言葉でまとめ表現している。・自分の学びを自分の言葉（表現）でまとめる時間の保障→自己評価の場の設定。 |
| ５　単元の指導と評価の計画（全５時間） |
| 時間 | 具体的な子どもの姿 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【】　評価規準 |
| １ | **置き時計, 物体 が含まれている画像  自動的に生成された説明** | ◆歴史的仮名遣いに注意して音読する。○　歴史的仮名遣いを確認し，『平家物語』の冒頭部を音読する。○　『平家物語』の中心思想に触れる。　 | 【知・技】・『平家物語』冒頭を歴史的仮名遣いに注意して音読している。（観察・暗唱テスト）【態度】・『平家物語』に描かれる考え方を理解している。（観察・ノート） |
| ２ | **置き時計, 物体 が含まれている画像  自動的に生成された説明** | ◆「敦盛の最期」を読み，内容を理解する。○　歴史的仮名遣いを確認し，「敦盛の最期」を音読する。○　「敦盛の最期」の内容を確認する。 | 【知・技】・「敦盛の最期」を歴史的仮名遣いに注意して音読している。（観察）・登場人物の身分や状況の違いを理解している。（ノート・観察） |
| ３　・ ４ | **物体, 置き時計 が含まれている画像  自動的に生成された説明****物体 が含まれている画像  自動的に生成された説明** | ◆登場人物の人物像を読み取る。○　せりふの主語を確認する。○　直実と敦盛のプロファイリングをする。○　人物像を話し合う。 | 【思・判・表】・登場人物の人物像を読み取ることができる。（ワークシート・観察）・根拠をもって人物像を話し合うことができる。【態度】・登場人物の人物像や心情などの理解したことを話し合おうとしている。 |
| ５ |  | ◆登場人物の心情の変化を読み取る。○　直実の心情の変化を言動から読み取る。○　武士としての生き方に触れる。 | 【思・判・表】・直実の心情の変化を読み取っている。（ワークシート・観察）・登場人物の心情についての自分の考えをワークシートにまとめている。（ワークシート・観察） |